

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立本村小学校 第5学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"><li>・市販のワークテストの結果、漢字の書き取り問題の正答率が69%であり、習慣的な反復練習が必要であると分析する。</li><li>・市学力定着度調査（令和6年2月実施）の結果、「書くこと」が全国平均に比べ30点下回っている。構成を考え書く・推敲する・目的に応じて工夫して書くに課題がある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・漢字小テスト、50問テストの直しを徹底し、90点以上になるよう再テストを実施する。</li><li>・週に一回、授業で文の構成を振り返り、テーマに沿って作文する。モデルとなる文を紹介することで、80%の児童が目的に応じて作文できるようにする。</li></ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"><li>・市販のワークテストの結果、小数のわり算の正答率は65%だった。補助プリントの解答を見ると整数のわり算の筆算の段階でつまづいている児童が全体の40%いたため、整数のわり算から復習、確実な定着が必要である。</li><li>・市学力定着度調査（令和6年2月実施）の結果、「がい数と四捨五入」が全国平均に比べ、30点低い。四則計算の理解が十分でないことが原因であると考えられる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・算数の時間の最初に5分間のスキルアップタイムを設け、常に計算練習を行うことで、四則計算を基本とした計算力の向上を図る。取り組んだプリントの正答率を90%以上にする。</li><li>・自主学习ノートで教科書の問題に取り組み、意図的に復習する場を設定する。市販のワークテストの知識・理解の部分で平均80点を目指す。</li></ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"><li>・他の班の実験結果と比較して差異点を見つけたり、経験や既習事項に基づいて予想を立てたりすることができている児童が60%いる。</li><li>・実験や観察の結果から、経験や既習事項に基づいて考察することができている児童が20%に留まっている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童の経験を想起させられるよう発問を工夫し、自分の体験と重ねながら考えられるよう実験、観察を行う。</li><li>・書き方の例を示し、自分の言葉で、実験結果やまとめを表現できるようにする。友達と考察やまとめを見合うことで、良いまとめ方を知り、80%の児童が書けるようにする。</li></ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"><li>・東京都統一体力テストの結果、学年全体として、50m走、立ち幅跳び、反復横跳びがそれぞれ全国平均と比較して5ポイント以上低い。</li><li>・自分の体力の向上に目を向けて学習に取り組んでいる児童が少なく、具体的な言葉で振り返りができている児童が20%に留まっている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・縄跳び、固定遊具等を活用することで、敏捷性を高める。授業の準備運動の一環として校庭3周、または室内（体育館）を5周走することで、基礎体力を上げる。</li><li>・学習のポイントを示し、学習の最後にできたことを発表させることで、体力の向上に目を向けさせていく。1単元で全員が発表できるようにする。</li><li>・単元に合わせた補助運動を行い、体力の底上げをする。</li></ul>